

物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例

事例番号696

発生場所

病室

精神・意識障害の有無

有

発生場所（その他）

発生内容の分類

離院・徘徊

関連したもの

窓

リスク

A. 患者による使い方・置き方のリスク
C. 不適切な環境設定・維持管理不足によるリスク

発生内容

精神科閉鎖病棟での患者離院

概要

夜間消灯後の看護師巡回時に、入院患者が不在であることに気づく。各病室には高さ約2mの位置に排煙窓があり、それが開放された状態となっていた。病院近辺を探すが見つからず。約1時間後に患者より病院へ電話連絡があり、「タバコが吸いたくて排煙窓から出ました。一旦家に帰って2日後に戻ります。」と話す。2日後に家族同伴で帰院し、外傷等は無く精神状態にも変調は認めなかった。

要因

排煙窓は普段閉まっているが、開閉ボタンは非常時に備え、患者自身も押せる位置に設置されていた。排煙窓から離院しないように、網戸がかけられているが、網戸の枠全体を外して離院した。排煙窓を全開すると成人1人が抜け出すのに十分な面積があった。排煙窓が開くときは音がするが、ナースステーションまで届く音では無く発見できなかった。

対策

検討中の対策：・排煙窓の開口面積を人間が通れない程度の面積となるよう、ストッパーを設置する。・排煙窓を開閉するとアラームが鳴るように設定し、看護師がすぐに気づくようにする。・病室の天井を不燃素材に変更し、排煙窓を開閉する必要性をなくす（開かないように塞ぐ）。

参照